

第 8 回 岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会 議事録

日 時：平成 19 年 11 月 8 日（木） 10：00～11：35

場 所：岸和田市 浪切ホール 研修室 1

出席者：久 隆浩委員

下村 泰彦委員

深井 勝美委員

三原 寛憲委員

道齋 芳雄委員

谷口 敏信委員

相良 長昭委員

河野 博彦委員

大松 忠男委員

黒川 孝信委員

櫻井 幹夫委員

事務局：出原、久保、土橋、奥、坂部、渡邊、株式会社八州 畑中、堀下、田中

《事務局》

定刻がまいりましたので、ただいまから第 8 回岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会の開催いたします。本日、開催に先立ちまして、H 委員から、所用があり欠席させていただきまずという連絡をいただいております。それでは議事を進行していきたいと思ひます。

まず委員長からご挨拶をお願いいたします。

《委員長》

おはようございます。ようやく秋めいてきましたけれども、今日も色々ご議論いただきたいと思ひます。そろそろ構想レベルでのまとめの段階にきておりますので、チェックをしていただき、いろいろご意見をいただきながら、修正を重ねてまいりたいと思ひます。よろしくお願ひします。

《事務局》

本題に移りますが、この先、委員長に議事の進行をお願いしたいと思ひます。

《委員長》

お手元の次第に沿ひまして、話を進めてまいりたいと思ひます。3 番でございますが、基本構想の作成をしていただきましたので、まずこれの説明からお願ひします。

《事務局》

それでは第 8 回の丘陵地区整備計画検討委員会「基本構想の作成」を提案させていただきますと思ひます。

《各資料を基に説明しております。下記は要点のみ記載しております。詳しくは別添資料をご覧ください。》

基本構想の作成

SWOT 分析を元に丘陵地区の特性を検証し、その施策をまとめる。また、全国の事例から仕組みや組織のあり方を検証して、施策の方向性を探る。

土地利用構想

土地利用構想の根幹となる自然と交通の骨格、土地利用ゾーニングの提案。

《以上、各項目をそれぞれ説明後、》

この様に全国の事例にもありますが、仕組みづくりは非常に重要であり、地域の活性化には必要不可欠です。しかしながら、これらの組織は立ち上げ当初から大きな組織を形成したわけではなく、資金が豊富にあったわけでもありません。それでも成功した秘訣は、地域資源を最大限に活かした創造と発信を行うこと、なによりも地域のコミュニティがこれらを支えていると考えております。以上でございます。

《委員長》

前回まで議論をさせていただいた内容も踏まえまして、さらに補強したという感じになってございますが、全体を通して何かお感じになったこと、あるいはご質問、ご意見、いずれでも結構ですので、意見交換をさせていただきたいと思います。

《N 委員》

これまでの検討の状況、今回の構想を拝見しますと、私は他のエリアでもこういったことに参加させていただいてますが、基本構想としては非常によくまとまった資料かなと感じました。地域の事情もしっかりS W O T分析で整理されていますし、今回事例で上げていただいたのも、都市近郊というような、ここと同じような条件での成功事例を整理されていて、非常に興味深いなという感じがしました。特に私が感心したのは、仕組みづくりに注目されているところです。だいたいこういう資料というのは、結果だけ示されて、他でうまくいったからここでもうまくいくというような説明が多いのですが、仕組みづくりに着目されて、非常に興味深い。ただ1点、これは前回の委員会でも議論になったようですけども、最終的には地権者の皆様のご意向を踏まえながら、よりリスクが低い整備手法を検討されていくと思うのですが、この計画の中でその部分を言葉で言及するか、ある程度厳しい面も書き込む必要があるのか、あるいはこれは本当の方向性の一つとして、成功に向けた絵姿として描くのか。あとは全体の開発のスケジュールですが、これも地権者の皆様のご意向を踏まえてということになると思うんですが、だいたいのイメージを、この中に入れ込むのか、あるいはほかの形で示すのか、その考え方も整理をしておいたほうがいいんじゃないかという印象を持ちました。

《委員長》

そのあたり事務局から、いまお考えになっている点はありませんでしょうか。

《事務局》

今回、土地利用構想の絵柄を提示させていただいた訳ですが、これは平成 17 年に地権者さんにお願いました、どういう土地利用を望むかというアンケートの内容を分析しまして、今回お示したゾーニングを考えております。地権者さんの中で、都市的利用を望む方の面積、農業的利用を望む方の面積などその辺も考慮して、色分けはさせていただいておりますので、方向性としてはそういう形で進んでいきたいと考えております。

《委員長》

私の方から補足をさせていただきますと、今回の構想というのは、大きなゾーニング、骨格づくりと、ソフトの方策の方向性を示していただきましたので、これに基づいて、それぞれの地権者さんとかそれぞれの主体の方がどう具体的に取り組んでいかれるのかというのは、次の段階で個別にお話になってくるかと思います。今、全国の6つの事例もお示しさせていただきましたけれども、これはそれぞれの地域の資源とか環境を読み取りながらそれぞれ展開されてますので、そうすれば岸和田の丘陵地区の場合はいったいどういう方向性でいけるのか、あるいは皆さんがいこうとされてるのかというのは、また次の段階で膝を突き合わせてお話をさせていただければなと思っておりますし、構想の計画の検討委員会はいったん閉まりますけれども、私も含めて、これからここにかかわってきたメンバーは、次の段階でも、知恵出しとか、一緒に歩いていくための仕掛けの中に入れていただいて、次の段階での話し合いを続けていく必要があるのではないかとはい思います。

《I委員》

先ほどから基本構想を見させていただいて、私も非常によくまとまってるなという思いをします。ただ、1点だけ補足してもらえればと思うのが、施策をまとめている中で、都市・地域住民のコミュニケーションということが、後半でパッと出てきているような気がして、前からの流れからすると取ってつけたみたいになってる感じがします。そのへんもう少し、こういう表現になってしまうのかもわかりませんが、施策として三本柱の一本になるので、少し具体的にわかるような形で表現できないのかなと思うんです。

《委員長》

説明とか、さまざまな工夫が必要でしょうね。

《事務局》

都市・地域住民のコミュニケーション、地域資源を活用した、要はコミュニケーション、たとえば農であり、自然であり、そこに都市の方がきていただいて、それを発展させていくという、そういう考えのもとでやってるわけですが。

《委員長》

具体的に言うと、1ページでSWOT分析をやっていただいて、右側に施策のまとめというのがあります。きょうこの大きな方向性でいいのかどうかということを確認させていただくために、右側の6つを整理させていただいたのですが、最終の基本構想になるときは、ここに数行の説明文がついてこないといけないと思うんです。その中で先ほどI委員おっしゃっていただいたように、ここで書いている、交流・コミュニケーションということなんだということを、少し丁寧に説明していただくとわかりやすいかなと思います。

今日もチラッとお話ありましたけれども、私なりに理解をさせてもらってるのは、一つは、

交通利便性を使って、都市の方が気軽にまずこの地域を訪れていただいて、自然とか農に親しんでいただける、その第一歩を印しやすいいということだと思えます。

事例にもありましたけれども、遊びを通じて農に触れる、自然に触れることによって、確率としてはわずかですけれども、定住まで進んでいかれるという方も出てきてますので、まず入り口として入りやすいものがあるということが一つだと思えます。

もう一つは、C委員さんも典型的なお一人ですけれども、いままで地域の方がしんどい目をしてやってらっしゃったことを、都市の住民さんは楽しみとしてやってくださる機会が増えていってるということです。そうすると地域の環境を地域の方がいままでは面倒をされてきたわけですけれども、その一部でも都市の住民さんが担い手として入ってくださることによって新たな展開が見えてくる、そのことが考えられるのかなと思います。

そういう幾つかの切り口をきちんと説明をしていただくと、わかりやすくなるんじゃないかと思えます。

《F委員》

全国の事例で、6つほど出していただいたんですが、なかなか成功されてると思えますけど、ただ、この全国の事例が、農地でこういうことをやろうというだけの地域でそれを行ったのか、個々の10haぐらいの人が集まってやったのか、どういう規模で、どういう形でやったというのが具体的にわからないということで、ただ、農業で、岸和田丘陵地区で、一部の地域だけで、全国の事例に基づいてこういうことやりましょうということでしたら、これに基づいて、いいところを取り入れてやれば、成功というか、そういう方向性できると思えます。ただ、住宅ゾーンと業務ゾーンのつながりを、やり方をどうしていくか、農業はうまいこといきますよという事例が出てるんですけど、住宅と業務用地を一緒にやるということですから、それに対するリスクというか、それをどう結びつけていくのか、今後その方向性というのは必要かなという気がします。

《事務局》

当然地域の中で連携させていくということですので、今後の仕組みづくりの中で議論を深めていくべきことではないかと考えております。

《F委員》

住宅業者、開発業者別として、こういう方向性で皆さんやりましょうということで、一時的に決めて、この方向がまとまれば、公共事業とひっつけていくのか、一緒に、とりあえず考えなあかんと思うんですけど。

《事務局》

構想としては全体ですけれども、やり方としたら、いっぺんにはなかなかしんどい面もあると思えますので、社会動向とか、その辺りを見ながらかなとは思えます。

《委員長》

3 ページで、真ん中に幾つか赤の破線で書いてる内容がありますけれども、これも最終構想のときにはもう少しそれぞれの内容を説明していただいて、そのそれぞれの関係をどう考えてるかということの説明していただくと、先ほどの F 委員のお話は少し見えてくるのかなと思います。業務のほうは、前回、前々回も、M 委員もチラッとおっしゃっていただきましたけれども、動向を見ないと、どういうところにきていただけるのかということのも、なかなか難しいところもありますので、方向性というか、こういうところがきてほしいなというのは書けますけれども、実際にそれがそうなるかどうかというのは、蓋を開けてみないとなかなかわからないというところもあるので、そのあたり書きぶりも事務局のほうで検討していただいて、どこまで踏み込んで書くのかということも検討していただけるとと思います。

《副委員長》

F 委員のご意見に関連して、私も 6 つの市町村の事例が何の事例かという、タイトルをいただきたいと思います。都市と農村との融合とを考え、都市の住民はどれだけ農地に興味をもっていたかという視点や、地域資源を活かした活性化に関する視点、そういう事例だと思っんです。ですから先ほどお話がありましたように、面積の規模であるとか、そこで関連している施設内容とか、そのへんの情報もここに少し入れていただきたい。これは主に、いかに仕掛けをつくっていくかということを中心に書かれているとは思っんですけど、それを担保するようなハード的な要素とか、住宅等の供給も考えておられる要素なのか、宿泊施設を考えておられるのか、また日帰り型で考えておられるようなところなのかとかも含め、施設状況も補足していただくのがうまいんじゃないかと思っんです。

《委員長》

いわゆる基本情報、そういうことをしっかりと出してくださいということで、特に地権者の皆さんにはご関心のある一つとすれば、例えばレストラン造られて、年間の総売上がどれぐらいになって、入れ込み客がどれぐらいこられてるのかというような、非常に生々しいデータもあれば、わかりやすくなりますね。

《副委員長》

高槻の例だけは 13 万人という記載がありましたね。私もあそこに 10 年ほど前に、まちづくりの事例調査に行ったことがあります。仕組みづくりということに関係してくるかもしれないんですが、あそこには当時、一人の若いご熱心な方がいらっしゃって、かなり回しておられたんです。林業との兼ね合わせですので、林業の 30 年、50 年の一度に収入が得る、その間の地域を活性化させるかというのが目的の一つでして、数年後にはガバツと収入が入る、それまでの期間、維持管理費をどう生み出すかが課題ですの、その仕組みなどについておわかりになるところを書いて頂ければと思っんです。あまた、地域資源といっても、花卉栽培や農作と林業とは違っしますので、そのあたりも補足頂くと、今回のことにもずいぶん役立っ

くるんじゃないかなと思います。

《委員長》

私もずっと高槻は情報交換させてもらったり、お手伝いさせてもらってます。Sさんという、お一人が頑張ってるって、そこに当時の産業の係長のOさんという方がおられて、市役所の元気のいい方と、地元の元気のいい方と、本当に数人なんです、最初に動くのは数人です。周りの方はどういう反応を示されてるかということ、そんなものできっこないとか、あるいはやってどうするんやという冷やかな言葉というのが、最初は多いです。これはどこでもそうです、高槻でもそうでした。ところが、そんなこと言うてもしかたがないやろということで、一部の方が引っぱって行って、ある程度形が見えてくると、それじゃあ乗ってみようかという方がどんどん増えてくるんです。それでほんまものになっていくというのが、典型的な方向性です。内子でもそうです。そういう意味では、最初から大きな仕掛けをつかって動かすというのは、私の経験上もそんなに簡単には動かないと思いますので、できるだけやってみようやないかという方のネットワークをみんなで強化をしていくというところがポイントかなと思います。

《C委員》

いまの話聞こうと思っておりましたが、ソフト面の施策はこれでいいと思うんです。私なりの解釈で非常に勝手なんです、基本構想につきましては、これで十分じゃないかなと思っております。ただ、ハード面のほう、これをどのようにしてしていくのか、これから一番ポイントになる項目だと思います。これからこの会議の運営どのようにされていくのかは、私、詳しくは理解してないんですが、全国の事例を出していただいておりますが、スタートの期間がはっきりしてる事例とそうでない事例があるんですが、予算的な面もあると思うんですけれども、どういうことでこれは掲載していただいたんですか、現地行って調査されたんでしょうか、それともインターネットか何か。

《事務局》

現地には行ってません。

《C委員》

私の浅い経験からいきましたら、これとは違うんですが、ほかのことで活動しておりますと思うのは、インターネットを私らもよく調べてやるんですけれども、たまたま現地に行きますと、インターネットと全然内容違っているんです。そういうものが多々あるわけです。極端な場合は、5年前はそういうことをスタートしてよかったんだけど、いまは沈んできているということもありますので、これは非常にいい例ですから、もう少し吟味してもらって、5つか6つ、現地に行く、何もダラダラと行くんじゃないで、学識者と行政の方1人、地元の方1人、それを分散して調べる。それをまたこちらのほうで情報収集していくということ

も、実質かかる場合には価値があると思うんです。デスクワークでがっちりとするということも必要ですけれども、それを支えるのは現地で生の声を聞くのが非常に後々のプラスになるんじゃないかということ、私自身は痛感してるんですけど、そういうことも参考にさせていただきたいと思います。

《N 委員》

先ほど F 委員も、いま C 委員もおっしゃった点ですけれども、今回 150ha という大きい、何をもって成功かという評価はなかなか難しく、事例を出していただいたやつも、個々の取り組みはおもしろいんだけど、じゃあどのくらいの規模で成功と言えるのかとか、どのくらいのまとまりがあるのか、非常に大きな問題で、まさに C 委員おっしゃったように、最初はよかったんだけど、だんだんじり貧になってくるとか、逆に、このときは悪かったけど、うまくいくとか、参考事例としては非常におもしろい事例かもしれないけれども、ただ、気をつけなきゃいけないのは、これを真似しても岸和田では成功しなくて、これを参考に、岸和田のプロジェクトというか、仕組みをつくっていく必要があるんで、そういう意味では、一次情報からどこにスポットライトを当てていくのかという形で、もうちょっとじっくり、これからの検討の中で十分議論されていくことかなという感じがします。

《B 委員》

色々おっしゃっておることはよくわかるんですけども、私たち考えるのは、きっかけがだいぶ違うな、岸和田はすでに土地というものは別にあって、今のやられてる全国の事例では、農業も衰退していった、林業もあかんようになってきた、何とかしようかという地権者なり所有者が寄ってやってきた。岸和田はそうじゃないんです、すでに使用する土地が別にあって、どう使うかという問題だと思うんです。そのへんがだいぶ考えが違うなと、私は思うんです。そうやってきたら、誰かリーダーがいて、何人が寄って、また言うていく。だけども今の現状では、我々ここに寄せてもらってますけども、地元へ帰ってリーダーじゃないんです、正直申し上げて。困ったからやろうというリーダーじゃないんです。どないするかということのかたまりであって、あかんさかいやるか、もっと何とかしようかということじゃないしに、すでに土地を売ってしまった、すでにカネになってしまった、それをどうするかという問題ですね、地権者といえども。それは地権者として持ってますよ、ただし、理由があって地権者になってるわけです。開発した当時、宅地でほしいものは宅地で渡す、農地でほしいものは造成して農地でお渡しするよという条件があっちはじめて、私らも参加したわけです。そのへんがだいぶ違う考えしてもらわんと、我々もせないかんですけども、行政のほうでも、岸和田市も地権者なんです。だからそのへんも考慮して、お互いに考えていかんと、我々地権者だから地権者だからということで話がまとまっていくかなという気がします。

《N 委員》

いろんな開発の形態がありまして、全く違う話になるかもしれないんですが、私自身自宅

を仙台にもっておりまして、仙台から単身赴任しております。仙台でいわゆるニュータウンに住んでまして、これは1,000haぐらいを三菱地所さんがひと山買い取って開発を進めたところに、私自身は住んでるんですが、そういうケースも地権者が1人であるケースですね。

いまおっしゃられたように、代々受け継いできて、そこにいて、生活苦しくてやらざるを得ないという状況のケースもあるでしょうし、まさにいまおっしゃられたように、いろんな事情があって地権者になられてるケースもあると思うので、そこは、いままでの議論もそうだと思うんですが、一概にこれだからこの方法しかないということではなくて、そういう事情を踏まえて皆さんで議論していくのかなという。

《B 委員》

だからいままでのほかで行われた業績とか事例について、最初はどういうきっかけでやったのか、それもお伺いしたいと思うんです。いまこの場で、私先ほどから言いますのは、すでに大きなかたりになってしまってますので、いま現実成功したというところは、最初のきっかけがもっと小さいところからだったと思うんです。

《委員長》

さきほどもチラッと申し上げましたように、これはこういう事例がありますがいかがでしょうかぐらいのご紹介に、この構想ではとどめざるを得ないのかなと思いますので、それじゃ一緒にやっていただきましょうという方が出てこれれば、その方々とまた詳細に詰めていく必要もあるのかなと思いますし、先ほどからお話をさせていただいてますように、高槻も産業の係長でしたし、八千代の場合も産業の課長さんですね。ここには載ってませんけれども、京都の美山町も、いまは入れ込み数が90万人ぐらいいられてますけれども、最初のきっかけは産業の課長さんです。最終的には助役さんまでいかれました。ですので、市役所側にも頑張れる方がおられてはじめて両輪でいけてるということもございますので、そういうところも来年度以降は、岸和田市はそれじゃ誰が市役所側のトップになるのかという形で考えていただければと思います。

《C 委員》

この説明の中で、非常に末端の話になるんですけど、自然保全ゾーンを中心とした共存・連携となっておりますけども、まだ構想段階だからお答えが難しいのかわかりませんが、運営とか管理、これはどういうふうなお考えなんでしょうか。具体的に言いますと、行政が中心になるとか、あるいは地権者が中心になるとか、あるいは別の各種団体が中心になるとか、いろいろあるんですけど、ほかのはだいたいどこが主体というか、運営になるかということがわかりますけど。

《事務局》

具体的にどこがどうというのは、いまの段階では考えてないんですけども、今後地域の

中に入って、仕組みづくり、そういうものを議論していく中で、できれば協力していただける方がいれば、そういう方たちを募って、里山保全といいますか、そういうような形で保全していければなどは考えておるんですけども。

《C 委員》

構想段階ですね。

《事務局》

そういうことでございます。

《K 委員》

先ほども委員長も言われたとおり、構想で、まとめがこのぐらいでいいん違うかなと、僕は思いましたし、細かいことはまだまだこれだけじゃわかりませんので、いま C 委員も言われたけれど、自然環境の保全の問題もあるけれど、このへんまだまだ先のこともかもしれません、その組織とか、そういうのになってきたら。ある程度ぼやっとこういう形をつくって、これからもっと具体的なものをつくっていきながらやっていくというか。

組織も、環境保全の問題についても、地元の人もかなり入ってもらって、その人の意見を尊重しながらやっていくようにしないと、続かんと思います。地元が、昔からそこに手を入れて、みんなが遊んだり、山行って木を切ったり、いろいろやってたんで、できるだけそういう人をもっと上手に動かしてというか、そうしないと、神於山でもいろいろあれだけれど、神於山の地元の人よりもほかからきてる人もかなりおるから、本当に神於山で遊んだりとか、あそこは昔はマツタケも出たりしたと思うんです。そういう昔の話を聞いたり、内畑とか、積川とか、稲葉とか、いろいろありますが、その地域の人がどうかかわってきたとか、それが大事な感じもします。応援してもらう人もあるし、そういう具体的なやつは、もう少し先になっていく感じですね。

《委員長》

茨木の山のほうの美山でも、農家の方と一緒に連携してやってるんですけども、最初に私の友人が美山の森林組合の方に声かけたときに、ボランティアはもう結構やと、最初に言われたんです。なんでや言うと、毎回毎回違う人に教えるのはどれだけ大変か解ってるのかということで、ずっと継続してやる覚悟がある人を何人が集めてくれ、そういう方にきちんと教えて、その方を中心にまたやるんだったらご協力させていただくということで、美山の場合はスタートしました。そんな経験いろいろ集めてくると、やり方とか、先が見えてくるのかなと思います。

《C 委員》

これから基本構想は構想で、詰めていくのにはいろいろな問題が出てくると思います。そ

れが一つの楽しみじゃないですか。

《副委員長》

6ページの山系・水系、地形図と、8ページの土地利用構想図、これを拝見してますと、真ん中のあたりの岸和田中央線沿いのところに尾根筋が走ってるんですね。これは基本構想ですから、この土地利用構想が、ほぼこれでセットされていくわけですね。それで質問ですが、業務系土地利用がはりつくとフラット盤になるような気がするんです。6ページに書いてあります図の真ん中の、春木川流域と漢字で書いてあるあたりの尾根筋は全部飛ばないんですか。もし飛んでしまうと、水系が変わって、蜻蛉池公園や、もしくはそちら側のため池の方に水がいくと思います。この構想段階で少し、水の流れとか、標高とか、景観であるとかという基盤を明確に書く必要があるのではないですか。

《事務局》

水系のことももちろん考慮はしています。ただ、一応業務系という事で色分けしてるんですけど、業務系の中でも、その中にちょっとした公園があったりというのは出てきますので、そのへん活用しながら、水系は変えないように考えていきたいと思います。

《副委員長》

大きな流れの話になるかもしれませんが、本年度に土地利用構想を全部完成した後、次年度以降の基本計画に結びつけていくときに、この構想図がかなり大事になってこようかと思うんです。それで、今後、この構想図に基づいてディスカッションしながら進めていくということ、すなわち、この構想段階は、一応の絵柄であって、今後変更ありますよということを記述しておく必要はないですか。

《事務局》

あくまでも基本構想であって、これをベースに今後検討していくという形のものだという考えです。

《副委員長》

言いたかったことは、本構想案は、一度にボンと進めませんよ、ディスカッションしながら部分修正し、いい方向へ進めていくということ。すなわち、時代の流れ、背景、社会情勢などに柔軟に対応でき、フィードバックしながら検討を積み重ねていけるということ、書いておいた方が、いいのではと思いましたので。構想案は、案外変わる場合が多いと思うんです。

《事務局》

地権者さんの意向等、平成17年度当時にしたもののでございますので、今後地権者さん

と細部にわたって協議していく中で、時代の流れの中で、意向等変化してる部分もあると思うんです。そういうことも再度確認しながらということで、基本は基本なんですけれども、若干の変更はありきかなとは思ってます。

《副委員長》

そのへんの流れというか、基本計画を進めていくときの進め方というか仕組みを、構想段階で書いておくのか、書いておかないのかというのが気になります。それが一つと、最初に委員長がおっしゃっていた、1ページのSWOT分析の施策のまとめの6つですが、上から4つ目の「土地の有効利用や将来展望に叶う土地利用構想の立案」というのと、一番下の「丘陵地区整備による地区の活性化」の、この2つは上位の概念ではないかと思うんです。6つ並列に書かれてるんですが、それらを実現するための方法として、蜻蛉池公園であるかと、安全・安心であるとか、3つ目の地域資源を活かした話であるとか、5つ目のコミュニケーションの場の形成があるんじゃないか、順位づけがあるような気がしまして、そのへんも並列でいいのか、段組にするのか、大きなタイトルが2つぐらい並べといて、4つ実現化方策とするのかなど、これは検討しておいていただきたく思います。

《委員長》

実は前回までの議論の中でお出しをしているものを、あえて重複するので出してないというところが幾つかありますね。たとえば具体的には、8ページの構想図をつくり上げるときに、別の資料を積み上げて、たとえば傾斜とか、そういうものでやっていますね。

《事務局》

前回までの議論等を反映してこの様になっています。

《委員長》

事前の打ち合わせのときに私も確認させていただいたんですけれども、これは基本構想の案ですかというお話をさせていただいたんですが、これは基本構想の案ではないんです。このあたりがいま微妙なんです。今日のタイトルも「基本構想の作成」というタイトルがついてます。これも一つのベースに、前回までの積み上げも含めて、次回ぐらいになると思うんですけれども、全体の基本構想の案というのにまとめさせていただきますので、前回までに出していただいている資料の中にも、かなり重要なんですけれども入ってない部分もかなりありますし、きょうSWOT分析から事例紹介に飛んでますけれども、先ほど副委員長がおっしゃっていただいたように、現状分析から大きなコンセプトがあったり、我々が昨年度のまとめにさせてもらったように、ここへ開発もっていくときに4つの大原則みたいなものをまとめましたね。そういうものも入り込んで、最終的には仕上げていきますので、そのときに先ほどおっしゃっていただいたように、次のレベルに入ってきたときに、この6つが並列じゃないよという指摘いただきましたので、それも踏まえて次回までの構想案づくりのとき

に反映をさせていただければと思います。

《N 委員》

2 ページで基本構想の作成のところ、地域資源を活かした何々の形成、これはこの委員会でご議論やご提案していくのですか。

《事務局》

できればこの場で、基本コンセプトということで決めていただければと。

《委員長》

前回口八スの里でしたね。

《事務局》

前回、解りにくいので、もうちょっと身近なものが良いのではないかという話だったので。

《委員長》

例えば箕面でいまそろそろ開発が始まりますけれども、昔の余野川ダム計画の周りは、最初の頃は「水と緑の公園都市」と名前がついてましたね。いまは「箕面森町」という名前に変わりましたが、そういうキャッチフレーズがほしいということです。この 150ha の開発のイメージを一言であらわす言葉がほしいなということなんですけれども、何かアイデアございますか。なければ、事務局で考えていただくか、次回は 1 月ですか、それまで時間ありますので、こんなんどうやというのが思いつけば、事務局にお届けをいただくということでもけっこうかと思いますが、かなり全国でいろんな開発で言葉使ってますから、何もってきても同じような言葉になってしまうので、ユニークな言葉というのはなかなか見出しにくくなってるんですが。

《I 委員》

ありきたりになってきますね。ただ、近隣の既存の人であるとか、地域であるとか、そのへんは融合しながら、これから将来に向けて望まれる地域をつくっていくというのが一番流れてると思うんです。それはコミュニティかなと思いますけども、そういうのはどこでもありますし、ベースはそのへんやと思うんですけど、言葉を変えてというと、たぶんキャッチフレーズになったり、看板になっていくものなんで。

《委員長》

私もいろいろ考えてはみたんですけども、誰かに使われてしまってるという感じがしまして、私が考えたのは、20 世紀の最初にエベネザー・ハワードという方が「田園都市」というのを出されて、それがいまのニュータウン開発につながっていくんですけども、当時一

番最初にハワードが出した田園都市の構想の図柄を見てますと、真ん中がまちなんですけれども、一番外側には工場がはりついているんです。さらにその外側には農地がはりついていますので、そういう意味では住宅と工場と農地の組み合わせというのはまさしく田園都市なんです。田園都市がいいのかなと思って、林の中の田園都市というと林間田園都市になるんですが、もう橋本にありますし、そのあたり事務局の方も知恵をしばっていただいて、お願いしたいと思います。

あとお気づきになったこととか、あるいは構想づくりに向けて気になる点とか、ご助言とかありましたらと思いますが。

《C 委員》

スケジュール的には、変更してるといいますか、いままでの構想スケジュールでなくて、いろいろ吟味されてるという感じですね。

《事務局》

ご議論いただいて、かなり煮詰まってまいりましたので、次回あたりまとめの、先ほど委員長がおっしゃいました案ということで提示させていただきまして、次々回ぐらいでとりまとめをしていきたいというふうに考えております。

《委員長》

先ほど副委員長もチラッと行っていただいたように、構想は今年度できるんですけれども、それじゃ来年度以降それをどういう形で実現していくかという、仕組みとかスケジュールみたいなものが、先ほどのC委員のご質問でもあったと思うんです。そのあたりは次回提案になるんですかね。

《事務局》

これをつないでいく地域の組織づくりといえますか、関係者に入っていただいて、そういうことは当然これが終わって、次の段階でやっていかなければならないと考えておりますので、そっちへバトンタッチしていくような形で、年度内に基本構想として市長に提案して、そのあとそっちの組織のほうへ、さらに議論を深めていくという形で考えてます。

《委員長》

私は事務局のほうにチラチラ申し上げてますのは、岸和田も中心市街地を元気にするためには、TMOという組織をつくってますね。具体的には、どんチャカフェスタとか、あるいはだんじりんという貸し自転車とか、そういう事業を展開してますね。そういう中心市街地活性化のための協議会のようなものができて、商工会議所も入っていただけてますし、市役所も入っていただけてますし、地元の商店の方も入ってらっしゃるといって、そういう組織が実際にできてるわけです。それと同じようなものが、この丘陵地区の整備に関してもいるん

じゃないかなと、私は思ってます。これからもいろんな立場の方が意見交換をしたり、連携をして、場合によったら一緒にいろんなソフトな事業もモデル的にやってみるような、そんな組織が、個人的には必要だと思ってますし、実際に街中ではあるわけですから、これを構想で終わらせずに、次の段階に行くためには、市役所も本腰を入れて、そういう組織化をしていくということが必要ではないかと思えます。

ただ、そのあたりはそれぞれの思い、思惑とか、さまざまな状況がありますし、ぜひともそういう場合には農協さんは入っていただかないといけないなと思ってますので、そのあたりは農協さんにも持って帰っていただいて、話をしないといけないので、そのあたりも踏まえて次回どういう提案になるのかということで待っていただければと思います。

《B 委員》

私、先ほど申し上げたのは、行政にもかなり力入れてもらわんと、進まないと思うんです。個々にやったことでも、最初に何人かでやったからできたんであって、今回ここまで広がってしまったら、行政としてかなり力入れてまとめていかんと、個々のまとまりはとてつかなないと思えますので、そのへん役所のほうに頑張ってもらいたいなと思えます。

《I 委員》

私もB委員のおっしゃったように、基本構想というのはある程度綿密にこれだけ協議して、きちっとしたものができますね、間違いなく。次やと思うんです。小さい、少人数で狭い範囲から広がりを見せていったんじゃなくて、もともと広いところからのスタートやという違いがあるんで、だから基本構想に沿って次の段階で、優先順位をどうつけていくのか、どういう動きでいくのか、でもできればある意味ではやれるところから早くやるという、そういう組み合わせが非常に大事なかな。

《B 委員》

だからやれるところ、地域がだいたい限定されてますので、そこの方に集まってもらってこんな構想、また、一方ではそういう構想やということで、徐々に話していかんと、大きなかたまりの中で話したんでは、とてつやないけど、前へ足は出ないかなと思うんです。

《委員長》

おっしゃるとおりです。私も気になってますが、もう一つ具体的に言うと、丘陵地区整備課がいつまであるんやという話がありますので、5年後なくなるのか、10年後なくなるのか、だんだん内容が、この構想づくりの中で変わってきてますので、産業の振興とか、いろんな総合的なものが入ってきてますので、従来のように、山を削って土地をつくって、道路つくって、はい、お渡ししますというような形で、もともとの丘陵地区整備課はスタートしてると思うんですが、かなり総合的なもの変わってるので、体制づくりをどうするのかとか、市役所側もかなり考えていただかないといけないようになってくるのかなとは思えます。

《B 委員》

我々も地権者ですし、また、地権者であってここへ全然協力というか、関心のないお人もありますね、もともとから。その人らの対策も考えていかんと、ここでこれからやるか言うて、どこまで行ってひっくり返るやらわかりませんので、そのへんもどのくらいの件数あるのか、どういう場所であるのか、それも検討しておかんと、ただ単に、良いなというわけにはいかんと思うんです。

《K 委員》

もうちょっと具体的になってきたときに、地権者は地権者全部集まって、いっぺん話して、ある程度まとめていかんと、いいなと思っても、最後はつぶれてしまうから。特に売った人もあるし、一部返ってくる人もあるし、全然まだ虫食いやから。

《B 委員》

我々も一部参加してますので、あんまり反対もできないという立場であると思うんです。だけど最初から反対して、ここに何も関わってない人にどういう話をもっていくのか、一番心配だと思うんです。

《K 委員》

だからある程度まとまってきたら、そこへも行って、そのへんの意見もしっかりくみ上げていくというか、そしてその意見がどんな形で反映して、計画の中へ取り込めるか、これも大事やと思うな。

《C 委員》

こういう会議を、デスクワークでやってますと、構想とか、そういうソフト面が非常に進んでくるんですけども、ハード面のほうが置き去りになってきて、一応こういう構想できたからこれでいいじゃないか、これで一件落着という雰囲気にならないように、それには、こういう会を開催するにあたっては、それまでの裏の活動、支えの活動あるいはコミュニケーションで、各地元の方との接触とか、もちろん地元の方々も、任すというだけじゃなくて、この会の要望に対して協力してもらおうとかいうことで、ここにくるまでに3回、4回、そういうミーティングやっておってもあたりまえじゃないかなと思うんです。ものすごくこれは大事な問題でしょうし、生活かかっている問題ですから。

ですから私らが軽く言う言葉じゃないでしょうけども、これだけの大きいことをしていくという場合には、こういう会を開くにあたってのネゴというのがものすごく大切じゃないかと思います。じゃそれを誰がするかならば、地元の方と行政の方、あるいは学識者の方が入って、個々にでも何回もしないといかんのじゃないか。

《委員長》

地権者さんのお集まりということですので、内子町の話がきょうありましたけれども、何度か担当された課長さんとお話をさせていただいて、やっぱり内子町も同じだなと思ったのは、一つは、お母ちゃん連中が元気なんです。幾つかのまちでは、ご主人よりも奥さん連中がぐいぐい引っぱっていったという事例もありますので、一家の代表としてこられる土地の権利の部分はそれで必要なんですけれども、別な集まりもあれば、また違う観点が見えてくるかなと思いますし、ずばり言わせていただくと、お父さんと息子さん、娘さんの意見が違うというのも、当然一家の中でもありますので、地権者といっても、誰が思いを反映するかという話が、一家の中でも違いますし、村になってくるとまた違いますし、そのへんもいろんな工夫が必要ではないかなと思います。

《I 委員》

私も、委員長がさっきおっしゃっていただいた、次の段階のいろんな部分で、農に関することなんで、きちっとやらせていただきたい。ただ、その中で非常に大事なことは何点かあると思うんです。私もたまたま今、農業の担い手が少ないというのがあって、それがすごい農業後継者で、専業農家を目指す人かというたら、そうじゃなしに、定年期を主体とした、団塊世代の退職がいま始まりましたというので、タイミングというのがありますし、いま安全・安心な農産物というのは、どこいっても一種世の中のブームですね。だから必ずタイミングとかいうのがあるので、時期がものすごく大事なかなと思います。

あとは先ほどから話が出てます、地権者さんの理解をどう得るのか、私の思うのは、あそこはいい成功事例あるからというのでは、たぶん無理やと思います。私らでもこんな大きな構想じゃないです、小さいやつでいきますけども、ある意味ではどれだけ汗をかいて歩いたかが、最終結果にはね返ってくるというのがあるので、当初からこの構想の関係も含めてあまり賛成じゃなかった人、そのへん、いわれる構想がきちっとできた次の段階から、どんな組織をつくって、どう動くのかというのは非常に大事だと思います。

《委員長》

ほかにいかがでしょうか。

それではその他のところで何か事務局からございますか。皆さまからも、せっかくの機会ですから、何かお気づきになった点あるいはお話がございましたら。

きょう冒頭に N 委員さんから、従来にない仕組みづくりを重要視した構想ですねという話をいただきましたけれども、私ももともと絵を書いて開発をする側の人間でしたけれども、最近はこちらかという、こういう形で仕掛け・仕組みを大切にしながら動かしていただく場面のほうが多くなりました。それは自分の経験も含めて、絵は幾らでも書けますけれども、それを誰が、どういう形で実現していくかという方策がないといけませんし、一緒に汗をかいていただける方がどれだけ居るかによって、絵に書いた餅になるのか、そうでないのかということが決まってくるのかなという経験をさせてもらいながら、この構想にもつながって

ますので、そういう意味で、今日は後半部分にたくさんの方に言っていただきましたように、構想はできるけれども、その次の段階どうするんだということと一緒に考えさせていただけるような仕掛け・仕組みを検討していただきたいと思ひますし、B委員がずっとおっしゃっていただけてますように、最初に旗振ったのは市役所やないかという話がありますので、そういう意味では市役所も半分以上の重要な責任をこれからも分担しながら進めていければなと思ひます。どうもありがとうございました。

《事務局》

活発なご意見、どうもありがとうございました。事務局から連絡でございますが、次回、第9回丘陵地区整備計画検討委員会を、年明けの1月10日の木曜日、浪切ホールで開催予定をしておりますのでよろしくお願ひいたします。細心につきましては後日連絡させていただきます。今日はどうもありがとうございました。

閉 会 午前11時35分